

解 答

問一 ① 貴重 ② 報道 ③ 省庁 ④ 務 ⑤ 根底

問二 イ 問三 肝（きも） 問四 エ

問五 専門用語を駆使した難解なものではなく、視聴者に向かって伝えようとするもの。

問六 難解な表現を少し言い換えるだけでは足りず、みんながわかっている前提で使うニュースの基本的な用語すら通用しなかったから。

問七 まず相手が何を知らないのかを知り、難解な説明にならないように配慮すること。また、自分は誰に向かって伝えているのか常に自問自答しながら、出来事の全体像をよく理解したうえで大胆に省略して伝えること。

問一 1 エ 2 ウ 3 ア 4 イ

問二 エ 問三 ウ 問四 オ

問五 「僕」は自分のずるい心に打ち勝つことができたうれしさと、駅員の青年らしい純真な笑顔に接して自分がとてもよいことをしたように思えるすがすがしさを感じている。

問六 イ

問七 自分がとてもよいことをしたと得意に思う気持ちが一気にしぼんでいき、駅員の間違いだと決めつけて疑いもしなかった自分のなさけなさを反省するとともに、大切なお金を無駄にするという取り返しのつかないことをしてしまった罪の意識に打ちひしがれている。

問八 エ

解 説

出典は、池上彰「わかりやすく〈伝える〉技術」。

問三 「肝に銘じる」とは、心に強く刻み、忘れないようにすること。「肝に命じる」は誤りですので、注意しましょう。

問四 前後に「ある経済ニュースが、あまりに専門的でわかりにくかった」、「そのまま読んでも視聴者にはわかりません」とあります。ここから、筆者が視聴者と同じ気持ちや目線になって、ニュース原稿がわかりやすいかどうか確認しようとしていることがわかります。

問五 少し後の本文に、「取材先のほうを向いて」「専門用語を駆使して難解な原稿を書いてしまい」と現状への批判が書かれています。そして筆者は、「自分は、誰に向かって伝えているのか。この自問自答から、わかりやすい説明は生まれてきます」とも言っていますので、この二つの要素をまとめて答えます。

問六 少し後の本文に、「自分の『ニュースの常識』を、根底から揺るがされました」とあります。それでは、どのように揺るがされたのかとその続きを見ると、「政府にしても官房長官にしても、みんながわかっていることを前提にしてニュースはつくられています。それを、『政府』や『官房長官』から説明しなければならない。ということは、普通のニュースの難解な表現を少し言い換えるだけで成り立つものではなかったのです」と説明されています。ここに着目し、字数内に収まるように簡潔にまとめます。

問七 本文の3行目に「わかりやすい説明の準備は、相手が何を知らないか、それを知ることから始まる」とあり、これはこの後述べられる話題の結論でもあります。専門的な用語ばかりの難解な原稿をつくって自己満足にひたるのではなく、常に相手の身になって、相手の目線で見て、文章内容や使用されている用語がわかるかどうか検証する姿勢を持つことだと筆者は言います。そして、さらにニュースを伝える相手が子どもであった筆者自身の体験から、「ざっくりと一言で説明する」、「大胆な省略」がいかに有効であるかということも筆者は述べていますね。

出典は、安岡章太郎「幸福」。

問二 終わりの場面で「返す必要もなかったつりの五円札」と書かれていますから、もともと十円札から釣りをもらうはずだったということがわかります。

問三 後に「しめた、駅員のやつ、つり銭を間違えやがった」と心中の言葉が書かれています。

問四 病気の母親を持つ貧しい駅員の生活を勝手に空想した「僕」は、そんな不幸な人からつり銭をごまかすことを恥じ、返すべきだと考えます。

問五 空想癖の結果、彼は自分の誠実な心を取り戻し、正しい行いをします。そのときの「いいことをした」というすがすがしい気持ちを説明します。

問六 後に「馬鹿だねえ、おまえは」という母親の台詞があります。

問七 灯りがともっていたのに、それが一瞬で消えて暗い闇になるというたとえは、明るい希望や喜びを感じていたのに、それが一転して絶望に変わるときによく使われます。

問八 「この空想癖がなかったとしたら、僕はいまより一層どうしようもなくとりえのない人間になっていたかもしれない」とあります。「空想癖」によって失敗はしても、この話のようにそれが結果的にはよろこびにつながったということもあって、決してそれは悪いものではなかったと述べているのです。